



やまと共創郷育センター NEWSLETTER

2022年春<最終号>

後期開講 地域志向科目「なら学+(プラス)」の授業を行いました(10月-2月)

地域志向科目の1つである「なら学+(プラス)」の令和3年度の授業が終了しました。この授業は、奈良県の伝統・地場産業や基幹産業を中心に各回のテーマを設定し、様々な視点から奈良の課題や取り組みについて学ぶもので下記授業スケジュールで実施しました。開講5年目となった令和3年度は対面とオンラインを併用したハイブリッド方式で授業を実施し、全学部から184人の学生が受講しました。また、ゲスト講師が来学できないことも予想されたため、学生は前週にオンデマンド方式にて授業動画を視聴及びレポート提出を行い、授業当日はオンライン又は対面にて挙手やチャット機能を使って、ゲスト講師と意見交換を行う構成としました。



課題レポート『奈良への提案』は、なら学+(プラス)授業で学んだ課題を深掘りし、調査・分析、その解決方法などをアウトプットする作業となります。テーマジャンルは、「観光」に関するものが5割で、「地場・伝統産業」に関するものが3割を占め、残り2割が「農林業」「サービス」「社会生活」でした。学生の提案プランを一部次頁に抜粋しています。農林業では、吉野杉の持つ温かみをSNSでアピールする淡色カフェや、後継者問題の解決を意識した週末農園の展開、地場・伝統産業では、夏のイメージが高い素麺を冬に消費、奈良県産靴下のブランド統一を目指すといったプランがありました。全体的に学生目線で背景や目的を分析し、具体的な内容で提案されていることが伺えます。一部、費用面や事業主体者の検討が具体的でないものもあり、実現可能性を踏まえた上でアイデアをさらに吟味する必要があると感じました。

この授業を通して学生からは、「奈良が抱える課題について様々な角度から考えることができた。自分の中で奈良への意識が変化している。」「授業動画を踏まえて、授業内で意見交換をすることで、他の人の意見を聞き、新たな視点をもつことができた。」といった感想があり、『奈良』の魅力を知るとともに、自身の

授業スケジュール	
1	ガイダンス
2	観光産業への理解を深め、課題を探る
3	伝統産業・地場産業① 林業への理解を深め、課題を探る
4	伝統産業・地場産業② 菓業への理解を深め、課題を探る
5	伝統産業・地場産業③ 墨と靴下への理解を深め、課題を探る
6	伝統産業・地場産業④ 素麺など食への理解を深め、課題を探る
7	伝統産業・地場産業⑤ 柿への理解を深め、課題を探る
8	プランニングを考える (奈良への提案 事前学習)
9	奈良の現代産業に聞く
10	女性の多様な生き方・働き方を考える
11	これからの地域社会と科学・技術を考える
12	これからの地域社会と生活福祉を考える
13	これからの地域社会と自治体の役割を考える
14	「課題発見・問題解決・提案力を養う」①なら学プラス受講者へのメッセージ
15	「課題発見・問題解決・提案力を養う」②課題レポートの講評並びに振り返り

出身地と重ねて地域課題と未来を考えた学生も多く見られ、学生自身の将来をも考える授業となりました。また、「奈良は日本の縮図であり、今まで以上に『奈良』で学んでいくこと、これからも『奈良』から学ぶことの大切さを実感した。」といった感想から、学生に「奈良をフィールドにして課題発見能力、多面的なものの見方、考える力を身に着ける」という授業目標を達成することができました。



ジャンル	プラン名
農林業	吉野杉の魅力が詰まった淡色カフェ
農林業	あなたも今日から柿農家！
地場伝統	鍋の締めに三輪素麺！プロジェクト
地場伝統	奈良の靴下ブランド統一を目指す「奈良鹿の子靴下」プロジェクト
観光	体験型謎解きイベントによる新規客層の開拓と特産業の情報発信
観光	目指せ奈良マスター！奈良の御朱印ラリー
サービス	まほろばロックフェス@平城宮跡
サービス	奈良の食フェス！「キッチンカーで移動式食の商店街」
社会生活	みんなであそびあそび！ 第二の家族になろうプロジェクト
社会生活	親子の居場所！子育て商店街
その他	Instagramを活用した施設紹介
その他	聖地巡礼の旅

学生が提出した「奈良への提案」プラン名（抜粋）

新規開講科目「奈良を知る」を開講しました（11月）

本授業は「奈良」をフィールドとして、地域社会の抱える課題の所在と背景および解決に向けた取り組みを具体的な事例を通して学ぶもので、実際に現地に出向き、自らも課題抽出や解決策提案のプロセスに関与することにより、地域で活躍できる人材の育成を目指した教養教育科目（後期集中1単位）の新規授業です。

今年度は、一般財団法人南都経済研究所からゲスト講師をお招きし11月13日・27日（土）に実施しました。当初は、広陵町でのイチゴ畑や、くつした博物館の見学を予定していましたが、コロナ禍のため、現地に出向くことができなかつたのは残念でしたが、オンラインにて広陵町関係者へのインタビューならびにRESASを使った情報収集、グループワークを実施しました。その後、①「広陵くつした」のブランディング発信、②「広陵ブランド」の周知方法、③靴下以外の魅力的に映る地域資源の3つのテーマについて提言書を作成し、プレゼンを行った後、広陵町関係者による講評を受けました。

この授業により、グループワークでの発表用資料作成ならびに広陵町に向けてのプレゼンを通して、「課題発見力」、「課題解決力」だけでなく、「人に伝える力」といったスキルも身につけることができました。



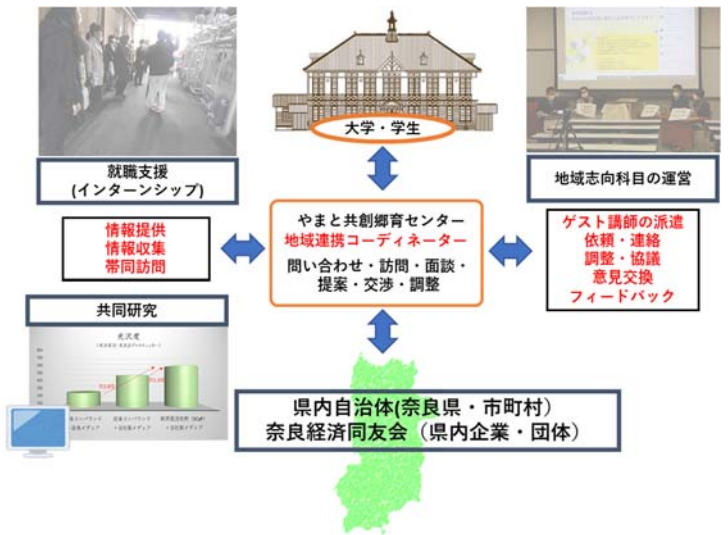
地域志向科目の授業運営を通して

地域連携コーディネーター 前川 光正

平成27年度に始まった「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」は、「大学等の高等教育機関と地方公共団体、企業とが連携し、地域を志向した教育並びに社会貢献を推進し、地方創生に寄与する人材の育成を進める」ことを目的とし、「奈良県下にある企業への就職率向上により若年層人口を奈良県に留めること」を掲げてきました。本学では、次頁図のとおり、すべての学生が地域志向科目を受講する教育カリキュラム改革と各種就職支援行事の実施を通じて学生が奈良への興味関心を高め、自身の就職先として奈良県内自治体・企業を選択してもらえるよう事業に取り組んできました。

平成29年度から開講している地域志向科目「なら学+ (プラス)」と今年度開講した地域志向科目「奈良を知る」は、地域が一体となって地域が必要とする人材を養成するために、県内自治体・企業の連携・協力により誕生したものです。

これらの授業運営を通して得た成果や波及効果は以下の通りです。



成果① 奈良の魅力ならびに課題に対する学び

県外からの進学者が大多数を占める本学の学生にとっては、「鹿と大仏」に代表されるように「奈良は観光」というイメージが先行している。

しかしながら、県内における少子高齢化や過疎化の進展、事業承継、県外就業率も非常に高いといったことから派生する様々な社会課題(教材)を抱えている。学生は、ゲスト講師から奈良の課題や取り組みについて異なる視点から講義いただくことにより、奈良県の魅力に気づき、奈良を通して地方創生への知見を深めることができた。

成果② 県内自治体・企業と学生が関わる機会

奈良県、奈良経済同友会、南都経済研究所等のご協力のもと、奈良県をはじめ自治体・団体・企業から毎年20人程のゲスト講師を迎える構成としている。単発的なセミナーや発表会とは異なり、半年間に渡り「なら学+ (プラス)」という授業の中で、学生は講義、意見交換、交流タイムを通して、多くのゲスト講師との関わる機会を得ることができた。授業の中で本学学生と関わる機会を設けられたことにより、大学と自治体・企業とのプラットフォームを構築する役割を果たすことができた。

波及効果① 学生への地方創生への意識づけと奈良のPR効果

県外からの進学者が大多数を占める本学の学生を、奈良県に定着させることはなかなか困難なことではあるが、奈良県の魅力に気づいた学生が自らの言葉や行動でそれを周囲に広めていく効果の他、「なら学+ (プラス)」や「奈良を知る」で得た知見(課題発見力、課題解決力、提案力など)を出身地に持ち帰り、出身地でも活躍できる地域リーダーの育成に寄与できると考えている。

波及効果② 奈良経済同友会など産学連携の広まり

この授業を契機として、「奈良に来てほしい人～若い女性が見る・感じる奈良の魅力～」というテーマのもと令和2年10月に奈良経済同友会観光活性化委員会が開催され、本学学生3名が出席し、自身の経験や気づきから奈良の観光活性に関する考えを述べる等、奈良経済界との産学交流にも寄与することができた。

地域志向科目の運営を通じて、今後も奈良女子大学が地域との交流を深め、県内企業との共同研究、共同プロジェクトに発展できればと考えています。

「CAREER FORUM 2021」を開催しました（11月）

やまと共創郷育センターでは、奈良県奈良しごとiセンター協力のもと、毎月第1・第3金曜日午後オンラインで就職支援「ナラで就カツ」を開設しています。その「ナラカツ」の特別企画として、11月15日(月)・16日(火)の2日間に渡り、奈良県奈良しごとiセンター及び奈良先端科学技術大学院大学との協同のもと、オンライン合同県内企業説明会「CAREER FORUM 2021」を開催し、本学学生のみならず、広く県内の大学生の就職活動支援を行いました。



「福祉・介護のしごと 大学キャラバン」開催しました（2月）

奈良県との協同のもと、単なる福祉・介護の仕事について学ぶだけでなく、持続可能な日本社会のために福祉をいかに推進していくか、またジェンダー平等を実現した職場にしていこうと、社会における立ち位置についても考える「大学キャラバン」が2月18日(金)にオンラインで実施されました。本学からは3名の学生が参加し、熱心に話を聞く姿が見られました。



やまと共創郷育センターの活動を終了いたします

やまと共創郷育センターは令和4年3月末日をもって、その活動を終えることになりました。

奈良県、奈良経済同友会を始めとするCOC+協働機関の皆様には、改めましてCOC+事業ならびにやまと共創郷育センターの事業運営に際し、多大なるご協力をいただき、深く感謝を申し上げます。

－ 退任のご挨拶 －

やまと共創郷育センター設立直後の平成28年1月から特任教授・COC+コーディネーター、地域連携コーディネーターを務めさせていただきました。大学と地域自治体・企業とのプラットフォームの構築を目指して参りました。皆様方のご理解とご協力・ご尽力のおかげをもちまして、6年間もの長きに亘り、仕事をさせていただきましたことを改めまして厚く感謝申し上げます。奈良女子大学が引き続き、地域との連携を深め、地方創生に寄与していかれますことを祈念し退任の挨拶とさせていただきます。



地域連携コーディネーター 前川 光正

「奈良カレッジズ構想」のご案内

奈良県や関西文化学術研究都市等の大学近隣地域に位置する研究機関、教育機関、企業、自治体等と連携・協働体制を構築し、それぞれの強みや人的・物的資源の交流による教育研究インフラの強化を図る「奈良カレッジズ構想」が令和4年度からスタートします。やまと共創郷育センターがCOC+で築いた企業・自治体・団体との関係は、この「奈良カレッジズ構想」の礎となり、関係機関・大学それぞれの今後の発展に繋げるための活動を引き続き実施していきます。

令和4年4月以降の窓口

- 共同研究や地域連携事業に関すること ... 社会連携センター TEL 0742-20-3734
- 求人情報・インターンシップに関すること ... 学生生活課就職係 TEL 0742-20-3270

発行 奈良女子大学 やまと共創郷育センター

〒630-8506 奈良市北魚屋東町 奈良女子大学コラボレーションセンター1階
TEL 0742-20-3989 FAX 0742-20-3993 Email: coc-yamato@cc.nara-wu.ac.jp